

（午後1時00分 再開）

○議長（中西峰雄君）休憩前に引き続き会議を開きます。

順番10、12番 辻本 勉君。

〔12番（辻本 勉君）登壇〕

○12番（辻本 勉君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、一般質問を行いたいと思います。

まず、衆議院選挙で政権交代がなされました。私の所属する連合和歌山も民主党政権実現に向けて総力を結集して戦いまして、国民の理解をいただきまして政権交代がなされました。その中で、やはり国民はこれからの政治は教育と福祉というものが大変大事だということが出されまして、このことに国政だけではなしに市行政においても今後このことを最重点課題として取り組んでいくことが、市民の期待にこたえられる政治であろうかなと思っております。

そういう意味で、今回は幼保一元化の5カ年の見直しについてをまずお尋ねしたいと思います。本当に橋本市の子どもたち、特に大変大事な幼保の時代をいかに過ごしていくかということが大変重要でありますので、その環境整備をすることが行政の最優先課題ではないかなと思っております。

幼保一元化5カ年計画に基づきまして、高野口こども園が本年4月に開園いたしまして、本市の幼保の再編整備がスタートを切りました。計画どおりだと次は隅田地区であります。しかしながら、当初予定どおりに進行していないのが現実であります。高野口こども園すら1年遅れ、隅田については大変遅れが心配されております。そんな中で、下兵庫・河瀬地区からの要望書も提出されておりますが、

現状どのようになっているのかということについてお尋ねしたいと思います。

今の状況を考えますと、大幅な計画のずれが生じると予測されます。そしてそのことによる大きな影響が発生するのは必至であります。どのようなことが生じ、それに対応する施策は考えているのでしょうか。また計画の見直しは考えているのでしょうか。以下の点についてお尋ねをいたします。

現在の状況及び隅田地区で実施されている説明会、そしてその説明会を受けて設立されました懇話会での地域保護者の意見についてお尋ねいたします。

続いて、2番目として、5カ年計画の大幅見直しは必至だと考えますが、いかがですか。

3番目として、大幅遅れに伴う影響についてということで、特に老朽化した施設については耐震問題等含めまして大きな問題が発生すると考えられますので、そのことについて詳しくご答弁をいただきたいと思います。

続いて2番目ですが、市役所本庁舎を中心とするいわゆるシビックゾーンにおける公共施設配置の将来構想についてであります。

本庁舎、市民会館、図書館を含む教育文化会館及び周辺に位置する橋本小学校、橋本幼稚園、橋本保育園の耐震問題と、(仮称)保健福祉センター建設に合わせて、本年3月18日の市議会全員協議会にシビックゾーン整備に関する基本計画が報告されました。

しかしながら、何分にも(仮称)保健福祉センター建設に伴い早急に作成されたものであるとの感は否めません。

このシビックゾーンが庁内全体の、職員全体のものになっているかといえば大変疑問があるわけでありまして。本庁舎と教育文化会館

の耐震補強工事がなされようとしている中で、全体構想を明らかにし、広く市民の意見を聞き、市民に理解を得、さらにスタッフを充実させて（仮称）第2次橋本市長期総合計画の主要施策としてシビックゾーン基本構想、そして整備計画へと進めていかななくてはなりません。改めて現時点での考えをお尋ねいたします。

まず1番目ですけれども、第1次シビックゾーン整備計画についてということで、3月18日に出されておりますけれども、各施設の状態と実際21年からの5カ年計画になっておりますので各施設の状態と当面の方針、それと色々な工事に伴う行政各部署の配置について詳しくお知らせください。

2番目、耐震補強と解体、新築という工事関係では三つの方法があるわけでありましてけれども、将来のことも考えながら、予算のことも考えながら、耐震補強をして、一時しのぎをして使っていくのがいいのか、全く利用価値がない施設であれば解体して取り壊していくという方法がいいのか、大変大事な施設であるので、将来を見越してこの際新築をしていくといういろいろな考え方がありますので、そのことを十分吟味した中で今回のシビックゾーン計画が出されているのかどうかについてお尋ねいたします。

それと、3番目は将来構想についてであります。先ほども言いましたが、第2次長期総合計画のほうに出していくということでありまして、当然もう将来に向けて基本的なことを検討するという段階ではないのかなと思うんです。当初の第1次計画は若干、急につくったという感が否めないもので、本来こういう大事な問題、これは本市にとっても市民にとっても大変大事な問題でありますので、じっくり腰を据えてスタッフの充実を図りながら当然やっていかななくてはならないし、全体

を挙げてやっていくべき問題でありますので、そのことを踏まえて将来構想についてお尋ねいたしたいと思います。

1回目の質問をこれで終わります。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）第1次シビックゾーン整備計画における各施設の整備状況、当面の方針及び各行政部署の配置についてお答えいたします。

まず、各施設の整備状況につきましては、市役所本庁舎及び教育文化会館におきましては、それぞれ平成19年度と平成20年度に実施した耐震診断結果をもとに、本年度耐震補強工事のための実施設計を行っています。あわせて耐震補強工事施行時の課題整理を行い、速やかに工事着手ができるように関係各課との調整を行っておりますが、工事期間中の安全性の確保や市役所等を利用される方々の駐車場確保などの課題もあり、おのおの施設機能を確保しつつ市民の利便性を損なわないようにするためには、改めてスケジュールの再調整も必要であると考えております。また、中央公民館や図書館の利用につきましても、代替施設での利用方法について調整を図っているところでございます。

市民会館におきましては、現在耐震診断を実施しており、今後計画の検討に要するIs値は本年度内に確定する予定であります。市役所機能の移転先の一つである北別館については、橋本市開発公社、橋本市文化スポーツ振興公社及び橋本市森林組合にご協力をいただき、現在旧JA紀北かわかみ学文路グリーン店の改修工事を進め、本年10月下旬に移転開業していただく予定となっております。具体的な日程につきましては、広報はしもと10

月号において、市民の皆さまや利用者の方々に周知してまいりたいと考えております。

保健福祉センターにおきましては、本年度基本設計を行うため、今議会に補正予算として計上させていただいており、平成22年度より順次実施設計、建設工事を進め、計画どおりいけば平成24年度完成見込みとなります。

次に、当面の方針と行政各部署の配置についてでございますが、既に説明させていただいております保健福祉センター建設計画では、施設の効果的な運用を図るため、福祉事務所機能を移転する計画となっており、今後はこの移転に伴い生じる空間の活用方法も含め、市民の利便性の向上をかんがみながら新たな配置計画と全体スケジュールの見直しを行ってまいりたいと考えます。

2番目のご質問であります耐震補強、解体及び新築についての考え方ですが、現在本市では小学校等の教育施設や不特定多数の方々が利用する官公庁施設として市役所本庁舎、教育文化会館などの耐震化を優先的に進めております。今後の公共施設の耐震対策としては、計画的に耐震診断を実施し、耐震補強、解体、新築についての判断を引き続き行ってまいりたいと考えます。

また、耐震補強等については多額の費用を要するため、各施設の機能、利用状況、長寿命化のための調査などを実施し、施設の維持管理のためのコスト等、総合的に分析した上で的確に結論を出してまいります。

最後に、橋本市シビックゾーンにおける将来構想についてお答えいたします。

シビックゾーンはさまざまな行政サービスの拠点であり、これまでの行政サービスの提供はもとより、今後の重要課題でもある安心・安全のまちづくり、少子高齢化対策など、新たな行政機能によるより一層の充実が必要であると考えます。

保健福祉センターの建設をはじめ、本庁舎、教育文化会館等の耐震化については、これらの課題に対応するための一つの施策でしかありませんが、今後は将来的ビジョンに対する具体像を示していくためプロジェクトチームを設置し、十分な協議のもと（仮称）シビックゾーン基本構想を策定していくことといたします。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（森本健二君）登壇〕

○健康福祉部長（森本健二君）幼保一元化5カ年計画の見直しについてのご質問にお答えします。

1点目、現在の状況と隅田地区での地域・保護者の意見についてですが、ご承知のとおり計画に基づく1番目の施設として、4月に認定こども園「高野口こども園」を開園いたしました。2番目の施設として計画されているすみだこども園については、その再配置について昨年より地元区や保育園、幼稚園の代表者と懇談会を開催してまいりましたが、最終的な結論に至っておりません。懇談会では、すみだ保育園隣接地へこども園を建設するのであればアクセス道路を拡幅してほしい、隅田地区の西地域での交通の便の良いところにこども園をつくってほしい、もっと時間をかけて議論してほしい、幼稚園が廃園になると地域の文化の中心がなくなる、送迎に不安を感じるなどの意見をいただいております。また、下兵庫区、河瀬区からは当該地区へのこども園建設の要望をいただいております。

次に、計画の見直しについてですが、すみだこども園の進捗の遅れから、各こども園の開園予定は大幅に遅れる見通しとなっております。また、園児数の将来推計を最新のデータをもとに見直し、この将来園児数と地域バランスに配慮しながら、建設場所やこども園を

構成する保育園、幼稚園の再検討を行っているところであり、隅田地区におけるこども園の再配置の方針決定とあわせて計画を見直してまいりたいと考えています。

次に、計画が大幅が遅れた場合の耐震問題への対策についてですが、対象保育園、幼稚園の多くは昭和50年前後に建設されており、老朽化が進んでいます。計画を着実に進めることでこうした老朽化施設への対応も可能となりますが、事業進捗が遅れている現状から、年次計画を立て来年度から順次耐震診断を行い、問題のある施設については早急に対応していきたいと考えていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君、再質問ありますか。

12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）それでは再質問していきたいと思えます。

隅田地区での説明会のご回答をいただいたんですけども、長い間開催されていないと思うんです。最終がいつされたか、ちょっと僕今聞きもらしたんですけども、長い間会議が開催されていないと思うんですが、そんな中で説明会でも要望がかなり出ていました。そして、懇話会でもいろんな議論はされているんですけども、それを受けてなぜもっと積極的に次の、計画からいきましてももうかなり遅れているんですね。今すぐにできたところで、なぜもっと早く地域の方の意見を聞いたら議論する場をまた設けて返していかないんだと。そうしないと遅れるばかりでしょう。実際地域の方は、市長も来られて市長のほうから見直しを検討しますという答弁をいただいておりますね。ということは見直しただけだということ期待感を絶対持ちますわね。そうでしょう。そういう期待感を持たせておいて進み具合が大変悪いのに、なぜもっ

と積極的に話し合いをしないんですか。そうでないと何ぼでも遅れるばかりですよ。だから地元と、地元から出てきた意見をどうしていくんだということを議論して、それを地元へ返していくという作業が、見ていたら全くされていないんですね。それはどういうことなのかちょっと答弁いただけますか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）ただ今、辻本議員のほうからご質問いただきました隅田地区のすみだこども園再配置計画懇談会というのを昨年7月に第1回を開催いたしまして、本年1月に第2回を開催したところでございます。この点につきましても、昨年12月に辻本議員のほうから同様の質問をいただいております。その中で一定ご説明もさせていただいたわけでございますが、当初1回目に地元の関係区長、それから関係の保育園、幼稚園の保護者の方を懇談会の委員として入っていただき、市職員も入った中で一定開催させていただいたところでございます。

そうした中で、先ほどご答弁申しましたような形での意見の集約が出ております。そうした中で、いろいろと部内でも協議させていただいた中で、今年の1月に第2回の開催を実施させていただいたところなんですが、その中でも先ほど申しましたような意見が出ております。そうした中で、一定内部において協議をしております、市の5カ年計画に基づく説明をさせていただいたところですが、皆さまのほうからこの点についてはなかなか理解いただける状況ではなく、その調整について多くの時間を費やしてきたところでございます。

そうした中で、一つは後で議員のほうから質問をいただいております耐震化の問題、そ

れとそういう問題も含めまして新たに協議する形となってまいりました。そういう中で市としての一つの方向を、結果を出しまして、現在はその懇談会の座長の方と協議をさせていただいており、懇談会開催の日程調整に入っているところでございます。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）かなりの反対、反対といますか、いろんな意見、要望が出てきたのでその調整に大変苦慮しておるといことはわかるんですけども、でけへんものを何ぼ部内で話し合いしよっても進みませんね、これ。だからできるだけやはり地元で説明会をやって、地元へ行って、どんどんでけへんものはでけへん、ほんならどないしたらええんやという議論を重ねて行って初めて前へ進んでいくんであって、だから庁内で何ぼいろいろ、意見が出てきたやつ、でけへんから調整しとってもらちあきませんわ、実際のところ。そうでしょう。だから、これはできる、でけへんものはでけへんという形で投げ返して、そしたらどないしていくんだという地域からの意見も出てくると思うんでね。

だから、やはり回数を重ねる中で進めていくということにしないと、何ぼでも遅れるばかりですよ。隅田が今やっていてそういう状況であって、次3番目のところに行きますね。3番目でまたいろんな話が出てきてまた遅れますわ、実際のところ。次はどこですか、予定は。かなり遅れますね。そしたら、こんな計画が本当にできるのかどうか、ものすごく不安でしょう。だから次は西部地域ですわ。西部もかなり問題がたくさんあると思うんですよ。隅田だけでこれだけかかって、次行って、ずっと行ったらすごいことになってくるんで、その辺もうちょっと積極的に、取り組んだ限りは5カ年計画をびしっと出して取り組んでおる限りはそれに基づいて進めていか

んと、言うたら当初から無理があるような計画としか思われへんようになってくるんですよ。

毎年1園ずつ開園していくようになっているんでしょ。そしたら毎年1園開園しようと思ったらどれだけの作業があるのかということをおぼえていかんと、こっちをしながらでももう次のことを進めるぐらいでないと、毎年開園でけへん。だからもっと積極的にその辺やってくださいよ。そうでないと進みませんのでね。あとの問題はまた後でします。とりあえず隅田地区の分につきましてはそういうことできちっと地域へ返して、再度議論を十分してください。下兵庫・河瀬区長からの要望書が出ていますのでね。隅田のことについては所管の、私も文教委員ですので文教委員会のほうで十分議論していただけると思いますので、させていただきますので、きょうのところは、この場はもう控えたいと思います。

続いて、遅れの分ですね。そんな中で5年計画ですけれども、10年、15年計画になりますね、今の状況から見ておったら。特に私は橋本地域なので、橋本地域が一番最終なんですよ。最終なんと言うたらもう10年先、10年以内にできるかどうかわからへんですね。今の状況から見ておったら。せやからこの辺で、ほんまにもう今の段階で根本から見直しをせんと無理やと思うんです。そんな中で、耐震の問題も出てきておるでしょう。当初の5カ年計画策定の段階では耐震の問題があまりなかったと思うんですけども、それ以降耐震問題が大きく出てきていますので、耐震問題も出てきて、子どもの安全対策をやっぱりしていかなあかん。そんな中で幼保一元化の新設というか、改築もあるんですけども、幼保一元化に合わせて耐震でけへんでしょう。その辺も含めていったら、ほんまに大幅な見

直し、根本から見直す気があるのかどうか、ちょっとその辺答弁いただけますか。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）今おただしの耐震問題なんですけれども、このものにつきましては、先ほどご答弁いたしましたように計画的に順次古い保育園のほうからやっていきたいというふうに考えております。その結果に基づきまして、現在5カ年計画という形で出ささせていただいておりますこども園計画の順番になっておるところですけれども、その結果に基づいてその時点、その時点で出た数値に基づいて対応を図っていきたいというふうに考えております。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）耐震診断の結果を見てその都度、その都度やっていくということなんですが、耐震診断が出て耐震補強をしていくのはまた時間かかりますね。そうでしょう。だから本来言うたら一番大事なところなんで、もっとほんまに根本的に見直す気はないのかな、もう一度。この前高野口こども園ができていますけれども、あと四つ、5カ年計画のうち四つをもうほんまに基本的に、四つだけじゃなしにあとの部分もいろいろあると思うんですよ。それも含めてこの際きちっと、耐震補強は別として、耐震補強は当然していかんあかんでしょう、これ。だからそれを別として幼保一元化という中で大幅な見直しをする気があるかどうか、もう一回。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山本芳弘君）ちょっと言葉足らずで申しわけございませんでした。耐震診断をしていくという形と同時に、現在当初策定いたしました子

どもの将来人数、人口なんですけれども、それと今年改めて人口推計を再度子どものほうを改めて策定、計算してみたところ、やはり当初作成した子どもの数と今現在との差というものが大きく変わってきております。そうした中で、当初の子どもの数に合わせての5カ年計画という形の策定をしていったところでございます。しかしながら、子どもの数が大きく変動してくるということは、こども園をつくっていく中での策定計画について大きな影響を及ぼしてまいりますので、その辺も含めて、耐震と同時にこども園の計画も今後十分検討させていただきたいというふうに考えております。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）もう要望にしておきます。びしっと見直しをして、改めて幼保一元化計画というものを議会に提案してくださいよ、見直しをして。それもできるだけ早いうちに。もう隅田地区がいろんな要望が出ていてすんなりいくと、進んでいったというのであればそれはいいですよ。後のことを粛々と進めてもらったらいいで、今の状況のように隅田地区が全く進んでいかんというのであれば、ここ1年以内の間に再度この幼保一元化計画を見直したやつを議会に提起してくださいよ。そうでないと、このままで進むわけにいかんでしょう。皆さん地域の人なんか全部順番あとわかっていますわね。いつになるかわからんと。もう第一歩でつまづいておって、いつになるかわからんと。そのままいくというわけにいきませんでしょう。だからびしっと行政としてこれはもう見直さなにかんのと。見直して当然ですよ。もう2番目でつまづいとるんやから。2番目でもう何年も遅れが生じておるんですよ。5番目までいったら何年遅れるかわからんでしょう。そんなものを5カ年計画やいうて堂々と出し

とったら行政の恥ですわ。再度見直してびしっとしたものを出示してくださいよ。それだけとりあえず要望しておきます。ここの分はね。

続いて、3番の問題ですけれども、若干耐震の問題も出ておったんですけれども、先ほどのシビックゾーンともちょっと関連するんですけれども、庁舎と教育文化会館は耐震診断されて補強していく予定ですね。今設計やっておると思うんですけれども、幼稚園と保育園が何で、幼稚園はもうやっていますね、耐震診断を。シビックゾーンの計画の中で見たら、橋本幼稚園は載っておるんですね、耐震診断が。1次診断でI s値が0.3ですわ。そうでしょう。橋本保育園は未実施なんです。シビックゾーン計画を見たらね。橋本幼稚園が0.3やのに今後の方針で見たら幼保一元化の検討になっておるんですね。言うたら幼保一元化計画があるから、それまではもう辛抱してよと、そういうふうにとれるんですね、行政の考え方が。そしたら、庁舎とか教育文化会館、不特定多数の方が来られますよ、実際は。庁舎の職員もたくさんいる。文化会館も毎日ようけの方、同じ方がおられるわけでもないんですけれども、たくさんの人来られますけれども、大人は何かあったきに逃げるすべを知っていますよ。そうでしょう。幼稚園児、保育園児、この子どもは何ぼ教えても、何か災害があったときにどうするんですか。まず一番先に命が危ないですね。まだ小学生であれば、毎日の授業というか教育の中で指導しておれば、それなりに逃げるすべを会得できるんですよ。せやけど幼保が、自分のところの園舎がどないかなったときに逃げるすべはあるんですか。尊い子どもの命が一気に失われるんですよ。

だから、本来行政としてはそういう弱い立場のところから、人にとって危険性の強いところからやはり耐震補強等もすべきではない

のかなと思うんです。特に昭和50年前後に建設された園があるわけですね。これは近くなんでシビックゾーンとも関係する部分なんで、橋本幼稚園、橋本保育園と橋本東保育園は、保育園はまだ耐震診断されていないんで何とも言えませんが、大変老朽化しとるんですよ。大変危険性があるんです。万が一耐震診断して耐震度が高くても、もう老朽化しているのは間違いありません。それをどないするんだという大きな問題があるんですよ。幼保一元化の遅れによって、その辺に大きな影響を与えてくるわけでしょう。耐震補強はして当然なんです。耐震診断して悪かったら耐震補強して子どもの命を守るのは当然ですけれども、昭和50年前後につくられた園が老朽化してきて、子どもたちの環境としてはよくない。それをどないかしてやらなあかん。そしたらそれを、幼保一元化になるさかいにそれまで辛抱したらええわというんですか。これも幼保一元化がすんなり進んで5年だったら辛抱しますよ。辛抱できます。計画出とって、5カ年計画やから5年でやってくれるんやと辛抱できますけれども、いつになるかわからんような状況になって、子どもたちの教育状況が、環境が悪いのを辛抱せいというんでは話にならんでね。だからそういうことを、幼保一元化の5カ年計画の見直しをしてきちっと出してもらう。なおかつ遅れるところの老朽化したそういう園については、こういう耐震はもちろん当然のことだし、それ以外にも環境整備をきちっとやっていくんやという、そういう話をしてもらわんと、やはり次代を担う子どもたちのことですのでね。その辺どのように考えておられるのかお願いします。

○議長（中西峰雄君）保健福祉センター幼保一元化整備室長。

○保健福祉センター幼保一元化整備室長（山

本芳弘君)今シビックゾーンの話が出ましたので、一つ橋本地区のことにつきましてご説明させていただきます。

現在、先ほど議員のほうからお話がありましたように、既に幼稚園、小・中学校につきましてはほとんどのところが耐震の結果が出ております。そうした中で、現在保育園については、先ほどご答弁申し上げましたように今後年次的に、早急に耐震診断を行っていくという形を考えているところでございますが、その中で、橋本幼稚園の耐震結果の数値というのが、数値上非常に悪い数値が出ております。そうした中で、耐震診断につきまして橋本保育園についてはできる限り早急に実施をしていく中で、その結果数値を見て緊急避難的に橋本幼稚園の園児の方の受け入れ先として考えられないかどうかというのも検討していきたいというふうに考えております。

それと、その他の保育園につきましても、毎年次各園とヒアリングを実施しておりますので、それに基づいてその中で優先的に修繕をしていくべき園につきましては修繕をしていくという形で計画を持っておりますので、そういう形の中で対応させていただきたいというふうに考えてございます。

○議長(中西峰雄君)12番 辻本君。

○12番(辻本 勉君)いろいろあるんですけども、幼保一元化についてはそういうことできちっと見直しをしていただいて、市長も見直しをするという答弁は隅田地区の説明会でされておるみたいなので、やはりきちっと見直しをしていただいて、進んでいただきたいと思いますようにお願いしたいと思います。時間の配分上、幼保一元化についてはそれぐらいにしたいと思います。

続いて、シビックゾーンのことについていきたいと思います。

シビックゾーンですけれども、先ほども壇

上で話をさせてもらったんですが、5カ年計画が出ておるんですけども、いかんせん(仮称)保健福祉センターの建設に合わせて、こじ付けというのか、そこまで言うたら失礼なんですけど、何かあわててつくっていただいたような感覚を受けます。大変優秀な人材がおられまして、すばらしい計画をつくっていただいておりますけれども、いかんせんこれがすべての関係部署、教育委員会部局もありますけれども、いろんなところに浸透しているかといったら全く浸透していないというのが現状だと思うんですよ。これが出たときにも、教育委員会部局へいろいろ行きましたけれども、担当課長ぐらいは全然知りませんでした。教育長だけが知ってはったのか、次長だけが知ってはったのか知りませんけれども、かなり知らん人がたくさんおられました。ほんまに大事なシビックゾーンですので、やはりみんなが同じような意識を持って進めていかんとなかなか、いろんな作業があるんでしょう。市民に対してもどえらい大きな影響が出てきますわね。先ほど言いましたように市民、利用者、特に文化会館、図書館も含めてこの辺は大変市民に大きな影響を与える。先ほど説明ありましたけれども、工事中は移転をしていかなあかんと。これも大変な作業ですよ。こういう大変な作業があるにもかかわらず、何か態勢が悪い。進めていく態勢が悪い。どなたが今後どういう形で進めていくのかあれなんですけれども、その辺ちょっとどのように考えておられるのか、答弁していただけたらありがたいんですけども。

○議長(中西峰雄君)企画部長。

○企画部長(吉田長司君)まず急に決まった計画じゃないかというように言われるわけでございますけれども、以前に本庁舎が19年に耐震2次診断をして改修していかなければいけないという方向が出ています。ちょうど20



年度末までかかったわけでございますけれども、教育文化会館の耐震2次診断でどういふふうな結果が出るかということがありまして、速報値で改修、新築すれば20億円ほどかかるものを5億円程度の改修でいけるという結果が出た中でまとめさせたという経過がございます。ということで、事業計画でもうたっていますように、耐震の問題がなければ確かに本庁舎の増築といいますか、整備とか保健福祉センターだけの計画になったわけでございますけれども、耐震補強を考えていく中で大々的な考え方をしていかなければいけないような状況になったのは本当のところでございます。

そういう中で、一番問題になるのが、保健福祉センターのように新しくつくっていくのならいいわけでございますけれども、まず文化会館、かなり市民に活用されている中で工事のやり方、それから本庁舎の移転、引き続いて市民会館となってくるわけでございますけれども、現在このシビックゾーンの計画につきましては、企画経営室が中心になってやっておるわけでございますけれども、現有の中でやっております、一番まずいのは連絡調整がもう少しできていないかなということをおもっています。そういうことで、6月の議会でも一番先にかかるのが文化会館の工事ということで、めどとして工事を9月頃というように答弁させていただきました。そういうことで、少なくとも半年前にはきちっと計画ができていなければ市民にも広報ができないということもございます。貸し館の分も半年ぐらい前から入ってくるということもありますので、今後につきましては書いていましたように、関係する部署のプロジェクトチームをつくって実施していかなければ、今のような状態で進めていたらちょっとまずいことが起こるのじゃないかなと考えてございます

ので、早急に関係部署とプロジェクトチームをつくって、もたれもたれしないような形で計画を進めていきたいと考えてございます。現在のところ何もしていないかということではございません。今のところ、ほかの館の中で活用できないところの調査から進めまして、どういふふうに行事の配置とかそういうのをできないかということ、教育委員会と私のほうでやりとりをやっているような状況でございます。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）やっていくと、プロジェクトチームをつくってというんですけれども、やはり21年度から25年の計画が、年次計画を持たされておるんで、その中で作業といったら22年、23年、いろんな作業が重複しているわけやな、いろんな部署で。そしたら大変、特に市民に影響するものが大なので、もっときちとした体制でやっていかないかん。だれかが中心になって、やっぱりまとめていける人間がおらんなかなか進まんと思うんですよ。だからそれで言うたら、企業誘致も大事ですけれども、理事も企業誘致ばかりかかたらんと、こんなシビックゾーン、市にとってもどえらい大きな問題だと思うんですよ。こういうことにも力を注いでいただけるような、言うたらそういう人がおらんなかなか進まんと思うんですよ。これも多分恐らく、この計画も理事の指示でだれかがつくられたと思うんですよ。優秀な若い人材がなかったと思うんです。大変すばらしい、これだけのことをつくりようと思ったら大変だったと思うんです。日常業務をしながらね。だからいっぺんその辺理事、どのように考えておられるのか。

○議長（中西峰雄君）理事。

○理事（塚本 基君）私も組織の中の人間でございますので、ご指示があればそのように

させていただきますけれども、市民の方々がご利用いただける施設もありますので、なかなかそこら辺は難しいと思いますけれども、ある程度やはり決めにかかった状態で計画を進めていかんと、あれもこれもといいますと、前向いて転がりません。ですから、やはり迷惑かける部分は迷惑かけますけれども、1年間のご辛抱とかいうふうな形で決めて計画を進めていかんといかんというふうに考えておりますので、私も力不足でございますけれども、そういう指示がありましたらそのような形でしていきたいというふうには考えておりますけれども。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）細かいことにちょっとだけ入りたいと思います。

教育文化会館が耐震補強をされるということなんですが、図書館も含めてですけれども、シビックゾーンでいきますと図書館の移転というのが大変な作業ですね。市民会館東のほうへかわるという予定だと思んですが、図書館、あれだけの蔵書を市民会館のこっち、東側のところへかわって、それで耐震補強が終わったらまた向こうへ戻るんでしょう。市長が言われている4階、5階に図書館と前に言われていたんですけれども、ここにも書いています。図書館を教育文化会館4階、5階へ移転とあるんですけども、図書館一つ見たって大変な作業になるんですね。それと4階が図書館になると、これまでの橋本市の文化活動の拠点である文化会館としての機能が大変制限されてくる、削減されてしまうと。4階が図書館になって分館として使用不能になれば、文化会館としてどんな、今までの役割を果たせるのかという大きな問題もあるんですよ。そうでしょう。文化会館として使えるところはどこにあるんですか。2階は教育委員会が入っているでしょう。ホールあります

けれども。3階は中央公民館の部屋があって、あとちょっと部屋があるだけでしょう。4階は今まで結構部屋があって、いろんな文化活動に使用しておったということが、4階が図書館になってしまったら、文化活動をする拠点がなくなりますやん。そうでしょう。絵画の展示の問題とか書道展示の問題とか、いろんなことで4階はかなり利用されておったと思うんです。そういうこともほんまに考えとるんかということになるでしょう。その辺が企画のほうで机上でつくったものだから、そういういろんな問題があるんで、やはり市内連携をとってプロジェクトチームをつくっていろんな問題点を出した中でやっていかんと、実際にやる段階でいろんな問題が出てきます。それもきちっと分館なんかでも耐震補強されるけれども、美観上悪いと。こんなちょうつがいが入って美観上悪いし、老朽化しとって危険性のあるエレベーターかえれへんという話もちょっと聞いているんですけども、今このときにかえれへんだらどないするんやと。そうでしょう。当初、という話をされとった。エレベーターもかえへん、冷暖房機ももうがたがたやと。下に高圧電流があって大変危険だというのに、耐震補強だけでいいのかと。なおかつ市民にとって利用しにくくなることをするんだったら、もうちょっと考えていってもらわんと困るなということですよ。後でちょっともう一回ここは触れますので。

それと、I s 値の低い橋本小学校と橋本幼稚園、これもシビックゾーンの一環、中に入っていますので、計画でいいますと橋本小中は一貫校建設予定となって、幼稚園は幼保一元化の検討ということになっておるんですけども、何でこの辺をもっとシビックゾーンとして出して、小中一貫の話をするまでにシビックゾーン計画として橋本小学校はきちっと建設するんだと。あと小学校は耐震が悪い

のでつぶして新たにつくるんだとか、幼稚園はどないするんだということを市民にどんどんPRしていかなと小中一貫が進まん状況にもなってきたおると思うんですよ。小中一貫よりも、保護者から見たら子どもの命のほうが大重要ということになってきますのでね。その辺も含めてもっときちっとやっていただきたいなと思います。

あと将来のところで、庁舎の分散型というのか、今橋本市が考えておるのは分散型、分割型ですね。ゾーン別に市長が言われたとおり一般行政はここ、福祉ゾーンは（仮称）保健福祉センター、教育関係はこっちだと、分館を中心としてと。ゾーンの分割型がいいのか、ほんまに総合会館、庁舎も含めて核というかコア型がいいのかどうか、その辺を再度やはり考えていかないかんの違うかなと思うんです。旧の市民病院跡地はゾーン計画では保健福祉センター建設だけなんですけれども、あの大きな広いゾーンを将来どうしていくのかと、どない考えておるんやと。将来の絵をかいた中で（仮称）保健福祉センターをこの場所に建てますよということであればわかるんですけれども、この辺もやはりはっきりしていただきたいなということだと思います。

ここで1点だけ特に強調しておきたいのは、教育行政、橋本市の大事な教育行政の拠点である教育委員会が入っている教育文化会館、図書館も含めて、これをああいう耐震補強でして、今言いました図書館の問題、いろんな問題があつてそれでほんまにええんか、将来の橋本市の教育行政にとっていいんかどうかということ。これは大きな問題があると思うんですよ。教育行政に力を入れていくのであれば、やはり拠点もそれなりのものをしていかなあかん。保健福祉センターができて福祉のゾーンはよくなりますよ、確かに。これはなりますけれども、ほんなら教育ゾーンは

どないなるんだということ。そしたら、このことを教育委員会はどない考えとんねんと。財政の問題はありますよ、いろいろと。市長部局の考え方もあるけれども、教育委員会として教育行政の拠点をどない考えとるんやと。ああいう継ぎはぎでやって、耐震だけでええんかどうか。図書館を4階、5階にして、あと文化事業に使えるスペースが狭くなる。そうでしょう。あのままで今の補強して、教育委員会、橋本市の教育行政、あそこを拠点に何年間やるんですか。福祉ゾーンはものすごくきれいになりますよ。教育ゾーンはどないなつとるんやといたら、それは教育委員会としてこうあるべきだという意見を当然市長部局に投げかけていってもらわんことには、直接の担当は、やはり教育委員会が物を言うていかなことには、シビックゾーン計画の中で教育ゾーンはこうあるべきだということを教育委員会が提案してもらわんとだめだと思うんですけれども。だから教育長、教育行政の拠点として、あれでいいのかどない考えとるのか、一度簡単に答弁してください。

○議長（中西峰雄君）教育長。

○教育長（森本國昭君）教育委員会としては一番理想的なのは、ワンフロアでやっていきたいという理想がございますけれども、そういう気持ちは十分ございます。

○議長（中西峰雄君）12番 辻本君。

○12番（辻本 勉君）もう何回も言うのもあれなんで、教育長、やっぱり教育委員会としてのプランを持ってほしいんですよ。-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----やはり橋本市の教育委員会のある場所、教育施設の拠点はもっとすかつとしたところにあるべきだと思います。ワンフロア

にね。しかし、それを常日頃から出してもらってやっていかんと、なかなかこんな進みませんのでね。我々に言えと言われても教育長が何も言うてくれへんなら我々勝手にしゃべっただけになりますので、担当のほうからやはりきちっと教育委員会、教育行政の拠点はこうあるべきだということを出してきちっとやってもらいたいと思いますので、まだ次の第2次長期計画に合わせてのシビックゾーン計画もありますので、そのときまでにきちっとやってください。

最後に、今回衆議院選挙も終わりました、まず生活が第一ということなんで、今のままではだめだということで改革を期待した多くの国民の意思が反映して政権交代されたんですけれども、これは国だけではなくに市も同様だと思うんです。市民の生活がやはり第一、そして市民が将来に対して期待が持てるというのか、政治はやはり夢のある政治でないとだめだと思うんです。市長も出馬表明されましたので、最後に市長にシビックゾーンだけでなく橋本市の公共施設の配置等も含めて、市長の思いというか、図書館のことについても個人的には市長の思いを何回も聞かせていただきましたけれども、市長の思いを、夢でも結構なので述べていただいて、出馬表明されていますのでよろしく願いいたします。

○議長（中西峰雄君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）辻本議員の再質問にお答えを申し上げたいと思います。

シビックゾーンの議論につきましては、去年、おとしあたりから非常にいろいろ出されておるわけでございます。その多くのご意見は市民を思って、そして使い勝手のいい紀の川流域の中核のまちとして、効率的にすばらしいものをつくっていくべきだというお考えが強く出されておるわけでありましてけれど

も、何分財政的なこともございますし、ただ私はこの際教育関係、文化的なよりどころと保健福祉センターと、今まで保健福祉センターがあの中に入ってあったんですね。すべての催しにしたってやるにしたって、あれしかないんやから、市民会館とあれを機能しながらつくっておった。今度はそれをはっきり分けてやっていくということで、あまり狭隘で使い勝手が悪いとかということ私を、市民会館もあることですから、できるだけうまくそれを、機能を果たしていけるようにしたいなと思うわけでありまして、新しいものを建てるということ、これは極力、保健福祉センターだけにとどめたいなと。当分の間は、またあと大きな問題の図書館等の構想も、これは私は仮に市長をしていなくても日参しまして、そして快適な立派な、さすがにという図書館をつくっていくことが大事だと。教育が大事だということは耳にたこができるほど聞いています。

そういうことも含めて、本当に時間は若干かかっている面もありますし、不手際なものもあらうと思いますけれども、期待に沿えるようなすばらしいシビックゾーンというものを、最後にはよかったなというようにもっていきたいと思いますので、また適切なお力添え、ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（中西峰雄君）これをもって、12番 辻本君の一般質問は終わりました。

この際、2時10分まで休憩いたします。

（午後1時57分 休憩）